

愛知県福祉サービス第三評価事業 評価結果

①第三者評価機関名

一般社団法人 福祉サービス評価センター

②施設・事業所情報

名称：愛厚弥富の里		種別：就労継続支援B型	
代表者氏名：古川 富睦		定員（利用人数）：20名（21名）	
所在地：愛知県弥富市栄南町7-2			
TEL：0567-68-4322			
ホームページ： http://www.ai-kou.or.jp/			
【施設・事業所の概要】			
開設年月日：平成21年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 愛知県厚生事業団			
職員数	常勤職員：3名 1名（兼務）		非常勤職員：4名
専門職員	（専門職の名称）		
施設・設備の概要	（居室数）		（設備等）

③理念・基本方針

◇ 基本理念

私たちは、愛厚弥富の里利用者が幸せな生活を送れるようにするために「一人ひとりの利用者の主体性の保障と地域に根ざした施設づくり」を基本理念に確固たる倫理観をもって、その専門的役割を自覚し、自らの使命を果たします。

◇ 愛厚弥富の里経営方針

利用者の人権を尊重し、健全な環境のもとに、自立と社会経済活動への参加を促進するために、利用者一人ひとりの特性を的確に把握し適切な支援を行うことを目指して、次の事項を重点目標として適正かつ円滑な施設経営に努めます。

1. 利用者にとって安全、安心、快適な生活づくり
2. 職員にとって安全、安心、快適な職場環境づくり
3. 行政との連携と地域との共生
4. 健全で安定的・持続可能な財政基盤の確立

④施設・事業所の特徴的な取組

1. 愛厚弥富の里は、愛知県と三重県との県境に近い南西部に位置し、知的障害者入所更生施設として事業開始から20年を目前としている。定員80名の生活介護と施設入所支援、在宅支援として相談支援事業等を行う複合施設である。就労支援事業所は同一敷地内にあり、落ち着いた雰囲気運営されている。利用者の希望や特性に応じて作業内容を検討し、理解しやすいよう作業手順を示す配慮があり、工賃も作業実績に基づいて支払われている。

2. 利用者にとって安全、安心、快適な生活づくりに向けて、利用者の自己決定や自己実現の意思を尊重し、利用者主体の暮らしの実現に努めている。自主製品や野菜を作り、イベント等に出かけて利用者とともに販売し、社会参加の一環としている。特に、収穫を喜びに変える取り組みが利用者支援の要となっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年7月13日（契約日）～ 平成30年2月23日（評価決定日） 【平成30年1月16日（訪問調査日）】
受審回数 （前回の受審時期）	3回（平成26年度）

⑥総評

◇ 特に評価の高い点

1. 利用者定員20名と小規模事業所である利点を活かし運営されており、日中活動として、野菜づくりを主とした農耕、自主製品の制作や企業の下請け作業がある。利用者の希望に沿い野菜の販売や請負製品の納入に同行させることにより、積極的な社会参加を促進している。

2. 会話でのコミュニケーションが苦手な利用者には、口頭での伝達ではなく図や文字を用いて手順を示し、視覚的に理解しやすい工夫を行っている。利用者支援の基本である希望や特性に応じた作業支援、作業環境が整えられており、経営方針にある「利用者にとって安全、安心、快適な生活づくり」を実践している。

◇ 改善を求められる点

1. 利用者の高齢化による生活機能や意欲の低下により、少しずつではあるが不自由さや困難性が増えてくると思われる。日頃の作業効率や作業内容に変化がみられるだけでなく、工賃収入にも影響が出ることも予測され、利用者の思いや行動を把握するとともにサービスの質の向上を図る取り組みを期待する。

2. 社会福祉協議会など地域の社会資源と連携を深めることで、ボランティアを開拓するとともに、就労支援事業所としてボランティアの受入について検討を行い、福祉力の向上につながることを期待する。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

就労継続支援B型事業は、働く機会を提供する施設であるため、利用者がいかに働く意欲を持って取り組めるようにするかを重視している。そのため対価である工賃の向上についても、少しでも増やしやりがいにつながるように検討している。日中のみの関わりであるが生活している施設・グループホームとも連携し、本人の状態を把握するよう努めている。

今回改善を求められている点について検討し、より良い支援につながるよう努めていきたい。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの三段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

			第三者評価結果
Ⅰ-1-（１） 理念、基本方針が確立・周知されている。			
Ⅰ-1-（１）-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	障1	a ・ ⑥ ・ c	
<コメント> ・ 理念、基本方針が事業概要、事業計画、機関紙、ホームページなどに記載され、玄関ロビーと事務室にも掲示されている。 ・ 事業概要、事業計画は年度始めに全職員に配付され、運営会議、職員会議、就労会議、職場研修などを通して周知を図っている。 ・ 利用者には毎月開催の就労利用者懇談会などで、口頭、筆談及びひらがな表示で分かり易く説明している。			

Ⅰ-2 経営状況の把握

			第三者評価結果
Ⅰ-2-（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。			
Ⅰ-2-（１）-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	障2	a ・ ⑥ ・ c	
<コメント> ・ 法人本部が四半期毎に、各施設の経営状況の把握・分析を実施し、施設も把握している。 ・ 社会福祉事業全体的な動向としては、法人本部、弥富市などの関係機関と連携を保ち、弥富市の福祉計画策定委員でもあることから福祉ニーズ等を把握・分析している。 ・ 弥富の里にて相談支援事業を行っており、地域のニーズについても充分把握している。			
Ⅰ-2-（１）-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	障3	a ・ ⑥ ・ c	
<コメント> ・ 法人本部の施設長会議で、現状と課題を共有し、経営課題などについて職員会議で周知している。 ・ 収益と工賃向上のため地域のイベントへ参加し、野菜など直売の件数拡大を図るとともに、新たな自主製品の開発に取り組んでいる。			

Ⅰ-3 事業計画の策定

			第三者評価結果
Ⅰ-3-（１） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
Ⅰ-3-（１）-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	障4	a ・ ⑥ ・ c	
<コメント> ・ 愛知県厚生事業団経営方針のもと、中・長期計画として「第3期愛知県厚生事業団経営計画」が策定されているが、法人全ての事業所を対象とした計画であり、施設ごとの経営・課題を実現するために、独自のビジョンと事業方針・計画を検討し策定されることが望ましい。 ・ 就労継続支援B型事業のビジョンとして、利用者一人ひとりがやりがいを持って作業に取り組み、働く喜びを感じられるよう重点的に取り組んでいる。			

	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	障5	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 弥富の里事業計画は法人の中・長期計画を踏まえ、運営会議、職員会議、就労支援会議などで検討し策定されている。 ・ 就労継続支援B型事業として単年度計画が策定されており、重点事項、収入目標などが示されている。工賃目標達成のため、下請け作業の内容検討や地域のイベント等で自主製品や野菜を販売するとともに、親しみやすい事業所を目指している。			
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	障6	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 事業計画は、前年度の計画進捗状況や反省点を踏まえ見直しが行われ、各委員会、職員会議、就労会議などで意見を集約のうえ運営会議で決定し、年度始めの運営会議で全職員へ配付し周知している。 ・ 就労会議で、就労事業への取り組み状況を確認のうえ、自主製品、農作物の売り上げをつかむとともに計画の進捗状況を把握している。			
	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	障7	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 事業計画は利用者懇談会で説明しており、利用者に関心がある行事などは、作業場及びフロアーに掲示している。 ・ 利用者によっては十分に理解できない部分があるため筆談などにより、わかりやすく説明し周知している。			

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果	
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			
I-4-(1)-①	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	障8	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 第三者評価基準と同様の基準に基づき、毎年事業所としての自己評価を実施し、その結果は事業団本部に報告するとともに、第三者評価を3年毎に受審する体制である。 ・ 自己評価、第三者評価の結果について改善が必要な事項は、第三者評価自己評価委員会、職員会議などで検証し、サービスの質の向上に向けた検討を行っている。			
I-4-(1)-②	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	障9	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 前回の第三者評価結果を踏まえ、平成27年度より施設独自の就労支援事業B型事業計画を策定して運営している。 ・ 自己評価、第三者評価からの課題は、第三者評価自己評価委員会などで検証し対応策を検討しているが、改善計画がなく、改善実施計画の文書化が望まれる。			

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	障10	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 施設長は日頃から事業所全体の動きを把握する中で、経営会議、職員会議などで、役割と責任を明確にし随時職員に適切な助言を与え指導している。 ・ 施設長の役割と責任について、弥富の里組織図、事務分担表に記載し明確にするとともに、責務を明記している。 ・ 施設長は朝礼や会議、また、施設内研修でも機会を捉えて、自らの責任と役割を表明するとともにリーダーシップを発揮している。		
Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	障11	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 厚生事業団の「職員倫理綱領」「職員行動規範」及び弥富の里の「基本理念」「経営方針」などを職員に配付し、職員会議などで周知している。 ・ コンプライアンス委員会、人権委員会を定期的開催するとともに、外部講師によるコンプライアンス・虐待防止研修を実施し、施設長自らも参加するなど法令遵守に取り組んでいる。 ・ 毎年、コンプライアンス自己チェックを職員全体で実施し結果を公表し、法令遵守について正しく理解するよう取り組んでいる。		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	障12	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 施設長は、サービス向上に向けて研修機会を多く確保し教育研修の充実を図るとともに、積極的に職員の参加を促すなどリーダーシップを発揮している。 ・ 施設長は、職員会議やサービス改善委員会、事故防止委員会、就労継続支援会議などにおいて、支援の内容や改善策などの検討に指導力を発揮している。		
Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	障13	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 法人の中・長期計画に基づいて、安全・安心、快適な施設運営の取り組みに指導力を発揮している。 ・ 経営の改善や効果的な業務実現のため、海部南部圏内市町村、相談支援事業所などからの情報を活かし、就労継続支援事業利用者の紹介、受注先企業の発掘に繋げている。		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

第三者評価結果		
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	障14	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・福祉人材の確保・定着は本部の人事制度のもとで行われており、職員のうち正職員は本部で、パート職員は施設で採用することとしており、欠員が生じないように努めている。 ・今年度より、採用条件に無資格でも受験する機会を設け、採用後資格取得できるよう配慮し人材の確保に取り組んでいる。 ・職員採用の取り組みは、ハローワークや新聞広告、折込広告、ホームページなどで行っており、就職希望者へは施設概要等について理解を求め人材の確保に努めている。		
Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	障15	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・人事管理は、法人本部の人事評価制度実施要項を含む諸規程で明確に定められており、職員に周知されている。 ・人事評価は「能力発揮評価シート」に基づき、個人面談を施設長、次長が携わり本人の意向を聴き取り、本人申告シートと一緒に本部へ伝えられるとともに、次年度の異動、昇進などへ反映する総合的な人事管理が行われている。		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	障16	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・職員の時間外労働の実態を把握するとともに、計画的な有給休暇取得促進の取組みを行っており、育休明け職員の勤務調整の制度が設けられている。 ・職員の意向は、日頃から会議などを通じて確認しており、人事ヒヤリングで転勤希望、職場の環境問題、ストレスなどの把握に努めている。 ・毎年、職員の心身の健康と安全の確保のためストレスチェックを行い、必要に応じて産業医による面談を行うなど働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	障17	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・新規採用職員、異動職員について、OJT指導職員が一年間に亘って継続的に支援・指導し、習熟度については自己評価・担当者評価を実施している。 ・職員の昇任・昇格推薦基準が、一人ひとりへ求められる職務・能力の明確な目標になっており、組織的な取り組みとして目標達成に向けた職員の努力を促している。		
Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	障18	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・法人本部が作成したキャリア別、職種別研修計画に基づいて計画的に研修を実施している。 ・必要な知識を習得するために行う研修は全員が受講できるよう配慮するとともに、年間職場研修計画を立て参加を促している。		

Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	障19	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・施設外研修は積極的に受講を勧めており、全職員が年1回以上参加出来るよう計画調整を行っている。 ・研修の受講歴は職員研修受講履歴一覧で把握されており、研修テーマや職種・経歴等参考にして受講を促している。		

Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	障20	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・弥富の里としては「実習生受託要領」に沿って受け入れ体制は整備されており、保育実習、管理栄養士実習、また高校看護科生徒の看護実習について、継続的かつ積極的に受け入れている。就労支継続援事業所としては受入実績はないが、地域との共生の観点から検討されたい。		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果	
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	障21	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 法人のホームページに基本方針、サービス内容、事業運営、事業計画、収支報告など公開されている。 ・ 年3回、施設の広報誌「金魚草」を発行し、地域、関係機関、家族、利用者、ボランティアなどに配布している。			
Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	障22	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 法人本部の監査を毎年定期的に受け、適正な経営、運営のための取り組みが行われている。 ・ 社会福祉法人制度改革の一環として、29年度より会計監査人による監査が義務付けられ実施される見込みである。			

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果	
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
	Ⅱ-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	障23	a ・ ㉞ ・ c
＜コメント＞ ・ 経営方針、事業計画の「地域との実情に応じた地域貢献活動の拡充を行い共生を深める」との取り組みにより、地域の人々と交流しつつ支援に努めている。 ・ 施設行事のふれあい秋祭り、地域のまつりなどの行事に参加することや、自主製品・農作物の販売などで地域の住民等と交流する場を設けるなど、自立を促す取組を行っている。			

Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	障24	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富の里としては「ボランティア受入れマニュアル」は作成されており、清掃活動、行事手伝い、クラブ指導などで受入れている。就労支援事業として、地域との共生の観点から新たなボランティアグループの受入れを期待する。		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	障25	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富市社会福祉協議会、海部南部自立支援協議会など関係機関との会議や連絡会へ積極的に出席し、情報交換などに努め連携を図っている。 ・ 就労継続支援事業所として、弥富市作成のマップ付関係機関リストを活用し、職員誰もが取り出せるようにして共有化を図っている。		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ-4-(3)-①福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	障26	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富の里として、弥富市の福祉避難所、津波高潮緊急時避難所に指定されており、総合防災訓練では緊急事態に備え、施設の屋上を開放し地域住民の避難体験に協力を行った。 ・ 弥富の里相談支援事業として、ふれあい秋まつりに相談ブースを開設し、障害者に関する相談を受ける取り組みを計画し検討している。		
Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	障27	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富の里として、弥富市社会福祉協議会、海部南部自立支援協議会、相談事業所などの会議で福祉ニーズを把握するとともに、愛知県や弥富市などから委託を受けている障害児療育等支援事業、相談支援事業を継続し、地域の療育相談体制の充実に努めている。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果	
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	障28	a ・ ㉞ ・ c	
＜コメント＞ ・ 法人の理念・経営方針、基本方針に明示され周知は図られており、各種研修や会議等でも伝達し理解を深める取り組みを行っている。 ・ 利用者尊重の徹底・支援について職員の共通理解をより深めるため、運営会議・職員会議や研修委員会での検討やフィードバック研修等を行っている。			
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	障29	a ・ ㉞ ・ c	
＜コメント＞ ・ 職員倫理綱領や行動規範、おもいをかたちにする支援者心得10ヵ条があるもののマニュアルとは言い難いうえに、利用者への説明も十分とはいえないところがあり、理解を求める工夫がほしい。 ・ 利用者のプライバシー保護について職員に周知するとともに理解を求めているが、プライバシー保護に特化したマニュアルの作成を期待する。			
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	障30	a ・ ㉞ ・ c	
＜コメント＞ ・ 事業団のホームページやパンフレットなどを活用し、パンフレットは資料として相談支援事業所などに配布し情報を提供している。 ・ 利用者にとってもサービスの選択がしやすいように、説明する際に写真、絵等を使用し、よりわかりやすい工夫を望む。			
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	障31	a ・ ㉞ ・ c	
＜コメント＞ ・ わかりやすく説明することに努めているが、個々の理解力の問題も含め障害の特性から理解が難しい面もある。利用者の意思を確認しながら説明に努めているが、さらに工夫を加え理解を求める努力を期待する。 ・ 個別支援計画の作成には、本人の意向より家族の意見を反映することが多くなりがちである。わかりやすい丁寧な説明を望む。			
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	障32	a ・ ㉞ ・ c	
＜コメント＞ ・ 利用者の希望・意向に沿って本人・家族と十分協議したうえで、必要に応じて、関係機関や他の事業所と連携を取り協議を行うなど、継続性に配慮している。			

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。			
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	障33	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 毎月、就労利用者懇談会を開いており、利用者から意見・要望を聴くとともに支援内容を確認し、改善等が必要な案件は結果について周知するとともに改善につなげている。			
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	障34	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 苦情解決の体制は整備され、施設の玄関窓口に掲示し周知している。受付の方法は示されているが、就労支援事業所として機能していると言い難い面があるので工夫されたい。 ・ 苦情内容は整理し保管されており、対応について納得を促す説明を行うとともに、改善に向けての取り組みと解決結果は共有されている。			
Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	障35	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 弥富の里として意見箱は設置されており、利用者の意見はサービス管理責任者、職業指導員、生活支援員を中心に汲み取るよう努めている。 ・ バックアップ施設内に相談室を設けて聴き取る体制を確保しているが、周知を含め利用を促す取り組みが十分とはいえず工夫されたい。			
Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	障36	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 利用者懇談会等における意見に基づき、サービスの向上につながるよう早期の対応を目指し解決できることから取り組んでいる。 ・ 相談に関するマニュアルを整備するとともに、仕組みを効果的なものにする観点から適宜マニュアルの見直しを行って頂きたい。			
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	障37	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 安心・安全なサービス提供のため、施設内にサービス改善委員会・事故防止委員会が組織されている。法人規程により発生時の対応や報告などのマニュアルがあり職員に周知されており、業務は的確に実施されている。 ・ インシデント・事故報告について積極的に記入を促し、書面にて報告されており共有できている。収集した事例は事故防止委員会・サービス改善委員会で再発防止策等を検討し、運営会議・職員会議に報告のうえ共有しており、リスクの高い事故についてはサービス改善報告書を作成している。			
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	障38	a ・ ㉞ ・ c	
<コメント> ・ 利用者の健康管理は徹底しており、インフルエンザや感染力の強い胃腸風邪等の発症があった場合は作業を中止している。 ・ 感染症が発生した場合は速やかに委員会を開き、迅速かつ的確な対応を取ることとしている。 ・ 感染症食中毒防止委員会が設置され、関連するマニュアルも整備され職員にも周知されており、看護師による研修も時期に合わせて実施している。			

Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	障39	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富の里として事業継続計画（BCP）が策定されており、その計画の中で大規模な災害発生に備え、利用者・職員及び地域住民の食糧と水5日分を備蓄している。 ・ 防災防犯規定を定め、災害時の非常配備体制や連絡網、備蓄品リストを作成し管理者を決め対応している。 ・ 弥富の里としては、防災訓練等計画により地元住民が参加する地震津波想定総合防災訓練を始め年8回の訓練を行っている。就労支援事業所としては、その内の年4回、総合防災訓練や昼間想定訓練に参加している。		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	障40	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 事務分担も含め、業務マニュアルとして文書化され職員に周知しており、支援方法の確認に努めるとともに必要な都度見直しを行い、実施の確認をしている。		
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	障41	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 福祉サービス提供の標準的な実施方法は文書化されており、必要に応じてサービス向上について検討を行うとともに、定期的に見直す仕組みが確立されている。 ・ 組織的な取り組みとして、生活支援員、職業指導員等の意見や利用者自身の意見を踏まえ、調整する仕組みがある。		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	障42	㉠ ・ b ・ c
<コメント> ・ 個別支援計画はサービス管理責任者が中心となり、生活支援員・職業指導員・看護師等により協議を行うとともに、利用者・家族の意向を踏まえ作成されている。 ・ 適切なアセスメントのもとで個別支援計画を作成し、最低でも年2回見直しを行っており個別支援は計画に沿って行われている。		
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	障43	㉠ ・ b ・ c
<コメント> ・ 個別支援計画検討会議は6か月毎に開催することとしており、担当職員がアセスメント・モニタリングに基づき新しい計画案を作成し、サービス管理責任者、看護師、管理栄養士、担当支援員で新個別支援計画の支援内容について検討し作成している。 ・ 個別支援計画の見直しはマニュアルに基づいて行われ、変更が必要な時は検討会議を開いて関係職員参加のもと見直しを行い、サービス管理責任者が職員に周知している。		

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		障44	㉑ ・ b ・ c
<コメント> ・ 個別支援計画に沿ったサービスの実施状況、利用者の状態や日々の情報は業務日誌などに適切に記録されている。 ・ 情報は的確に整理されており共有化されているが、利用期間が長期に亘る可能性があることから個人別にファイリングするのが望ましいと思う。検討されたい。			
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。		障45	a ・ ㉒ ・ c
<コメント> ・ 施設における記録管理の責任者は次長としており、毎年、職員に対して個人情報保護に関する研修を実施している。 ・ 利用者に関する記録の管理体制は出来ており、職員がいつでも閲覧できるように決められた場所で保管している。			

A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果	
A- 1- （ 1 ） 自己決定の尊重			
	A- 1 -(1) -① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	障46	a ・ ㉓ ・ c
＜コメント＞ ・ 事業団職員倫理綱領、職員行動規範に「利用者の立場に立った支援」を行うとの方針が明文化されており、利用者の自己決定を尊重するエンパワメントの理念のもと、個々の要望に沿うよう配慮し支援を行っている。 ・ 利用者の自己決定を尊重した個別支援計画とするために、一人ひとりとの日常的な会話を大切にしている。			

A-1-(2) 権利侵害の防止等

A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	障47	㉔	・	・	c
<コメント> ・ 弥富の里における利用者の権利侵害の防止等に関する取り組みは、人権委員会が偶数月第2木曜日に開催しており的確に対応している。 ・ 権利侵害にあたる事項が発生した場合は、緊急に関係職員を招集し再発防止に努めている。					

A-2 生活支援

			第三者評価結果	
A-2-（１） 支援の基本				
	A-2-（１）-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。		障48	a ・ ㉔ ・ c
＜コメント＞ ・ 利用者の意見や希望を尊重することを基本とし、職員の対応は利用者の活動範囲が広がるよう、その内容を会議で確認し支援を行っている。				

A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	障49	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認に心掛け、状況や内容によってはイラストなどを使った視覚支援なども利用し、職員の間でも共通の認識により支援を行っている。		
A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	障50	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 個別的なものは、サービス管理責任者、生活支援員などが対応しており、必要に応じた情報提供や説明を行うとともに意思決定の支援を行っている。 ・ 日常の支援の中でいつでも相談できる環境になっており、個別支援計画見直しの際に参考としている。		
A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	障51	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 個別支援計画の作成、記録、評価や見直しについては適切に実施され、日中活動等の利用者支援に活かしている。 ・ 個別支援計画策定時には、施設内・施設外の活動場所に関わらず日中活動に関する検討も行っている。 ・ 利用者の求めにあった施設内活動や施設外行事参加への支援を行っており、それぞれの活動に関する情報提供を行っている。		
A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	障52	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 職場研修・法人主催の研修や支援業務マニュアルで、障害に関する知識の習得と支援向上に努めている。 ・ 個別支援検討会議でアセスメントに基づいた個別支援計画が立てられており、必要に応じ専門職の助言を得て見直しを行っている。		
A-2-(2) 日常的な生活支援		
A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	障53	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 利用者一人ひとりの個別支援計画により適切に支援が行われているが、障害の特性や程度、年齢及び体調等に合わせた丁寧な支援を望む。		
A-2-(3) 生活環境		
A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	障54	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 多くの利用者はケアホームに居住しており、就労で日中を過ごし作業に従事している。作業中においても、適宜休憩を取る体制が確保されている。		

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練			
	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	障55	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・機能訓練や生活訓練が必要と思われる場合は、専門職と関係職員による連携のもと、利用者一人ひとりの能力に応じたプログラム・メニューによる個別支援計画により支援している。			
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援			
	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	障56	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・利用者個々の健康状況について、毎朝検温を行うとともにバイタル測定値などにより把握し、サービス管理責任者は健康診断の情報と合わせて健康状態を掌握している。 ・怪我や体調不良が生じたときは、弥富の里に勤務している看護師に連絡し対応している。			
	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	障57	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・医療的な支援に関しては、弥富の里の看護師の指示を仰ぐとともに、指導、助言を受けながら支援している。 ・医療に関する情報の共有という点では、体調に関する訴え、受診したときの対応などについて把握できている。 ・事例としては少ないが、薬を服用している利用者について薬を飲む動作確認はしているが、チェック表を作るなど誤薬事故の防止に努められたい。			
A-2-(6) 社会参加、学習支援			
	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	障58	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・社会参加として、地域の行事などへ利用者が参加する配慮を行うとともに、利用者の意思を尊重しつつ外出支援の取り組みを行っている。			
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援			
	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	障59	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・利用者の希望と意向を尊重し、個々の好み・興味等を聴き把握したうえで丁寧に支援している。 ・利用者はケアホームの入所者が多く地域住民との交流も行われているが、より地域社会とつながる取り組みを期待する。			

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援			
	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	障60	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 家族には個別支援計画の実施状況を報告するとともに、新たな個別支援計画作成時には意向を確認して、計画に反映し職員に周知している。			
A-3 発達支援			
			第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援			
	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	障61	a ・ b ・ c
<コメント> 非該当			

A-4 就労支援

			第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援			
	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	障62	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 一人ひとりの働く力・取組みに見合った工賃の支給があり、工賃に関する苦情は見られず良好な信頼関係にあることは評価できる。			
	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	障63	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 利用者の希望に沿った作業に参加していただいております。一人ひとりの働く力に応じた支援を展開しています。 ・ 就労の機会を通し、それぞれの持っている能力を維持・向上させるためには適応可能な作業の確保が課題である。 ・ 他の事業所や相談支援事業所との情報交換を利用し、受注を増やす努力を期待する。			
	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	障64	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 弥富の里として、利用者にとって現作業を継続するとともに新たな作業の開拓、及び地域の障害者の受入支援について検討することが急務である。			